

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-73478

(P2002-73478A)

(43)公開日 平成14年3月12日(2002.3.12)

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード(参考)
G 0 6 F 13/00	6 0 5	G 0 6 F 13/00	6 0 5 F 5 B 0 0 9
// G 0 6 F 17/21	5 5 0	17/21	5 5 0 Z

審査請求 未請求 請求項の数3 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願2000-261281(P2000-261281)

(22)出願日 平成12年8月30日(2000.8.30)

(71)出願人 393012725

株式会社ユーエスシー

東京都品川区大崎1丁目6番4号

(72)発明者 小田島 渡

東京都品川区大崎1丁目6番4号 株式会  
社ユーエスシー内

(74)代理人 100092602

弁理士 山口 哲夫

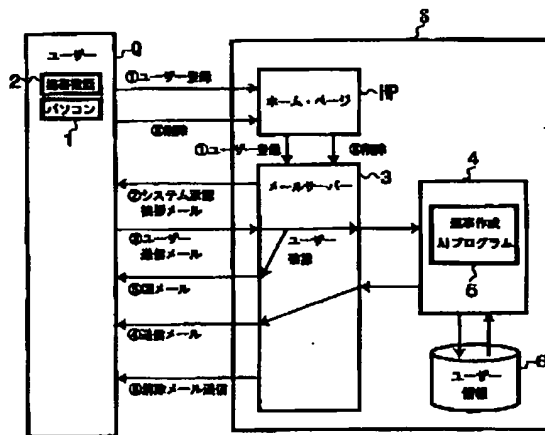
Fターム(参考) 5B009 QA00 QA02 QA12 VC02

(54)【発明の名称】 仮想電子メールシステム

(57)【要約】

【課題】 仮想の人物と電子メールのやりとりを楽しむ仮想電子メールシステムを提供する。

【解決手段】 仮想電子メールシステムは、ユーザUの有するパソコン1と、主催者Sが有するメールサーバ3と、上記パソコン1から送信された電子メールに対して返事を書く返事作成用コンピュータ装置4と、を備える。返事作成用コンピュータ装置4は、ユーザUから送られてきた電子メールの内容を解析し、自動的に返事を書くAIプログラム5を備える。また、返事作成用コンピュータ装置4は、異なる人格を有する複数のキャラクタに対応する返事を作成自在であり、且つ、ユーザUへの返事は、当該ユーザUが予め選択したキャラクタに対応した文面として作成する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ユーザの有する通信端末装置と、主催者が有するメールサーバと、上記通信端末装置から送信された電子メールに対して返事を書く返事作成手段と、を備え、上記返事作成手段は、ユーザから送られてきた電子メールの内容を解析し、自動的に返事を書くものであることを特徴とする仮想電子メールシステム。

【請求項2】 前記返事作成手段は、前記ユーザからの電子メールの文面のうちの名詞、形容詞、形容動詞、動詞を抽出し、当該文面中に現れる語彙の頻度を計算して当該文面中におけるキーワードを選び出し、これらキーワードに基づいて返事を作成するAIプログラムを備えたものであることを特徴とする請求項1に記載の仮想電子メールシステム。

【請求項3】 前記返事作成手段は、異なる人格を有する複数のキャラクタに対応する返事を作成自在であり、且つ、前記ユーザへの返事は、当該ユーザが予め選択したキャラクタに対応した文面として作成するものであることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の仮想電子メールシステム。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、主催者側のメールサーバとユーザとの間で、あたかも人間同士が行うがごとく、電子メールのやりとりを行える仮想電子メールシステムに関する。

## 【0002】

【従来技術とその課題】近年、インターネットの普及に伴い、電子メールシステムが広く利用されている。電子メールシステムは、メールサーバを介してネットワーク上のユーザ同士の間でメールのやりとりを行えるシステムであり、近年では、コンピュータ装置のみならず、メール専用端末装置や携帯電話を利用して電子メールのやりとりを行えるようになってきている。

【0003】また、このような電子メールシステムの普及に伴い、文通のごとく、遠隔な地にいる者との間で電子メールの交換を行う、所謂メル友と称される友人関係も出現している。このため、各種ホームページ上や月刊誌等には「メル友募集」のコーナーが設けられ、人気を博している。

【0004】しかしながら、ユーザの性格等によっては、積極的に上述のようなメル友を得ることのできない者が存在する。また、例えば電子メールソフト（メーラー）に育成ゲームを組み合わせたもの（例えば、ソニー社製のメーラーであるポストベットイット）が出現し、若者や女性の間で人気を博している。このような現状に鑑み、本出願人は、電子メールシステムを利用して、ユーザ自身が好みの人格を有する仮想の人物と電子メールのやりとりを行えるシステムがあれば、たとえメル友がいなくとも電子メールを楽しめ、しかも上記育成ゲーム

のごとく、付加的な楽しみがでできると考えた。このような電子メールシステムは従来知られてはならず、電子メールシステムの新規な楽しみ方を提供できるものである。この発明に係る仮想電子メールシステムは、このような事情に鑑みて創案されたものである。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】この発明に係る仮想電子メールシステムは、請求項1に記載したように、ユーザの有する通信端末装置と、主催者が有するメールサーバと、上記通信端末装置から送信された電子メールに対して返事を書く返事作成手段と、を備える。そして、上記返事作成手段は、ユーザから送られてきた電子メールの内容を解析し、自動的に返事を書くものであることを特徴としている。

【0006】このような請求項1に記載した仮想電子メールシステムにおいては、ユーザはコンピュータ装置や通信専用端末或いは携帯電話等の通信端末装置により、上記メールサーバに電子メールを送る。この電子メールがメールサーバに到着すると、このメールサーバに付設の返事作成手段が、当該電子メールの文面を解析し、当該ユーザに対して自動的に返事を書く。そして、メールサーバがこの返事を当該ユーザに返信する。このため、たとえ相手がいなくても電子メールを楽しむことが可能になる。

【0007】尚、上記返事作成手段としては、請求項2に記載したように、上記ユーザからの電子メールの文面のうちの名詞、形容詞、形容動詞、動詞を抽出し、当該文面中に現れる語彙の頻度を計算して当該文面中におけるキーワードを選び出し、これらキーワードに基づいて返事を作成するAIプログラムを備えたものを採用できる。

【0008】また、上記返事作成手段は、請求項3に記載したように、異なる人格を有する複数のキャラクタに対応する返事を作成自在であり、且つ、前記ユーザへの返事は、当該ユーザが予め選択したキャラクタに対応した文面として作成するものとすることができる。このような構成を採用した場合、ユーザ自身が好みの人格を有する仮想の人物と電子メールのやりとりを行えるようになり、電子メールの新たな楽しみを得ることが可能になる。

## 【0009】

【発明の実施の形態】以下、添付図面に示す実施の一形態例に基づき、この発明を詳細に説明する。

【0010】この形態例に係る仮想電子メールシステムは、ユーザUの有する、通信端末装置であるコンピュータ装置（パソコン）1や携帯電話2と、主催者Sが有するメールサーバ3と、上記パソコン1や携帯電話2から送信された電子メールに対して返事を書く返事作成用コンピュータ装置4と、を備えている。上記返事作成用コンピュータ装置4が、特許請求の範囲に記載した返事作

成手段である。

【0011】上記返事作成用コンピュータ装置4は、ユーザUから送られてきた電子メールの内容を解析し、自動的に返事を書くもので、本形態例においては、上記ユーザUからの電子メールの文面のうちの名詞、形容詞、形容動詞、動詞を抽出し、当該文面中に現れる語彙の頻度を計算して当該文面中におけるキーワードを選び出し、これらキーワードに基づいて返事を作成するA Iプログラム5を備えている。

【0012】更に、上記返事作成用コンピュータ4は、異なる人格を有する複数のキャラクタに対応する返事を作成自在であり、且つ、上記ユーザUへの返事は、当該ユーザUが予め選択したキャラクタに対応した文面として作成可能としている。すなわち、本形態例の場合、「おじいちゃん」、「おばあちゃん」、「お母さん」、「お父さん」、「長女」、「長男」、「次男」、「次女」「赤ちゃん」の9人の家族を設置し、この家族のうちのいずれかの人物と仮想的にメール交換できるように設定している。

【0013】上記家族の各人の性格は、次のとおりである。まず、「おじいちゃん」は、推定80歳で、ロックンロール（音楽の一分野）の好きな活発な性格を有している。次に、「おばあちゃん」は、推定75歳で、茶のみ友達とおしゃべりが好きな温和な性格である。次に、「お母さん」は、推定38歳で、セクシーで娘に負けられないと思っている。次に、「お父さん」は、推定40歳で、説教好きだが涙もろい、まじめな性格である。次に、「長女」は、推定18歳で、いいかげんな性格のいまだきの所謂コギャルである。次に、「長男」は、台詞のかっこよい爽やかな性格である。次に、「次男」は、推定10歳で、大人を小ばかにしている秀才である。次に、「次女」は、推定8歳でかわいい女の子である。最後に、「赤ちゃん」は、しゃべることはいないが、しゃべれないなりに感情表現をする。9人家族のそれぞれを、上述のような性格（キャラクタ）とし、ユーザUの好みに応じたキャラクタの者と仮想的な電子メールのやり取りを行うようにしている。

【0014】このような本形態例に係る仮想電子メールシステムにおいては、ユーザUはパソコン1等により、上記メールサーバ3に電子メールを送る。この電子メールがメールサーバ3に到着すると、このメールサーバ3に付設の返事作成用コンピュータ装置4が、当該電子メールの文面を解析し、当該ユーザUに対して自動的に返事を書く。そして、メールサーバ3がこの返事を当該ユーザUに返信する。このため、たとえ当該ユーザUにメール交換をする相手がいなくても、このユーザUは電子メールを楽しむことが可能になる。

【0015】特に、本形態例の場合、上記返事作成用コンピュータ装置4は、上記ユーザUからの電子メールの文面のうちの名詞、形容詞、形容動詞、動詞を抽出し、

当該文面中に現れる語彙の頻度を計算して当該文面中におけるキーワードを選び出し、これらキーワードに基づいて返事を作成するA Iプログラム5を備えている。また、上述したように、異なる人格を有する複数のキャラクタ（上記「おじいちゃん」等）に対応する返事を作成自在であり、且つ、上記ユーザUへの返事は、当該ユーザUが予め選択したキャラクタに対応した文面として作成する。このため、ユーザU自身が好みの人格を有する仮想の人物と電子メールのやりとりを行えるようになり、電子メールの新たな楽しみを得ることが可能になる。

【0016】なお、返送メールの文面は、選んだキャラクタの人格によって変化する。また、選んだキャラクタに代わって、別のキャラクタが返事を返す場合がある。また、各キャラクタによって、仮想の生活空間（会社、学校、家事など）があるので、それぞれの生活の返信メールが届けられるようにしている。このため、返信の時間帯や内容も変化する。

【0017】次に、本形態例に係る仮想電子メールシステムを利用する方法について説明する。まず、このシステムの利用希望者は、携帯電話2やパソコン1から、主催者SのホームページHPにアクセスし、図1に矢印1で示すようにユーザ登録をする。このユーザ登録は、ユーザUの返信希望の電子メールアドレスや個人情報など必要な項目を登録することで行う。正規にユーザ登録が行われると、主催者Sから、図1に矢印2で示すように挨拶メールが送信される。この時、ユーザUには、メールサーバ3側のメールアドレスが通知される。この後、ユーザUは、自由に好きな時に、通知されたメールアドレスに好きな内容をメール送信できる。

【0018】ユーザUの送信した電子メールに対する返信メールは、上記返事作成用コンピュータ装置4が自動的に作成し、図1の矢印4に示すように返信する。メールサーバ3が、ユーザ登録されていない別アドレスからのメールを受信した場合（図1の矢印3参照）には、図1の矢印5で示すように本システムを紹介するCMメールが送信される。ユーザ登録を削除したい場合は、携帯電話2やパソコン1から主催者SのホームページHPへアクセスし、図1に矢印6で示すように、削除手続きを行えばよい。正常に登録から削除されると、削除を通知するメールが送信されて、サービスが終了する。なお、図1中、符号6は、ユーザ情報を保存するデータベースである。また、上記挨拶メールやCMメールは、ユーザ名等を除く文面が、予め保存されており、この文面が送信されるようにしている。

【0019】なお、上記主催者Sは、従量制や定額制など、ユーザUが本システムを利用した際に料金を徴収する制度を採用することにより、運営費や人件費等を得るようにする。更には、返信メールの内容に各ユーザUにマッチする新商品情報の広告を掲載することで、スポン

## 6 データベース